

# 「まぜいなが家」を みんながの家に

飯舘村民と大学生が協働する

飯舘村復興を目指す4つのプロジェクト

令和5年度 事業報告書

一般財団法人 飯舘まぜい文化事業団



## Contents

目次 2

一般財団法人 飯舘までい文化事業団について 3

このプロジェクトが目指すもの 4

本年度の事業 5

<事業報告1>食を通じて飯舘とつながろう 6

「いたて村の村民食堂」

<事業報告2>ワークショップ/フィールドワークを通じて村を知ろう 11

飯舘村体験博覧会vol2.

「こちら5合目、応答せよ!～までいな山の登りかた～」

<事業報告3>国境を越えたつながりを復興に活かそう 19

「日台交流事業」

福島研修旅行 20

台湾研修旅行 23

<事業報告4>集落×大学生で新たなプロジェクトを立ち上げよう 27

飯舘までいな力研究所

佐須 28

長泥 29

本年度事業総括「人と人とのつながりが、人と土地とのつながりを創る」 30



一般財団法人

## 飯舘までい文化事業団について

山間の高原に広がる美しい村、飯舘。厳しい高地の自然と向き合い、村民同士が支え合うことを当たり前、人々は「までい」な暮らしを営み、自らの目指す村づくりに励んできました。そんな飯舘村を東日本大震災が襲ったのは 13 年前のこと。原発事故の影響で、これまで紡いできた暮らしを置き去りに、全村避難を余儀なくされました。

本財団が設立されたのは 1 年後の 2012 年。村の将来を担う飯舘村の中学生が、再生可能エネルギーによる村づくりの先進地であるドイツを訪ね、学びの成果を復興に生かす「未来への翼」事業が始まりました。それから現在までの 12 年間、飯舘村が経験した、全村避難→避難先での生活→帰村へという流れのなかで、それぞれの時期に、村民にとって必要とされる対策を見出し、さまざまな事業を企画し、活動の幅を広げてきました。

第 6 次総合振興計画を作成するなど、新たな村づくりの段階に入った飯舘村。行政と連携しつつも、在野の立場から独自の役割を果たせる民間団体として、「までい」な村づくりを推進していきます。



ホームページ

# このプロジェクトが目指すもの

村に帰ってきた人、通っている人、村を離れても心を寄せてくれる人、新しく住み始めた人…さまざまな背景を持っている飯館の村民たち。そして、国内外には村の復興を支えたい！という多くの支援者がいます。課題となっているのは、どのような人でも「村と関わることのできる」仕掛けづくり。

このプロジェクトでは、特に財団設立当初から深くかかわってきた大学生と村民とが中心となってプロジェクトを企画・運営することで、「村とのかかわりをさらに深め、一人ひとりがそれぞれのやりかたで村の復興に関わる」ことを目指します。

---

## これまでの活動

- ・2011年～ 「未来への翼」事業
- ・2013年～ 「までいカレンダー制作事業」 文化庁「方言を活用した被災地復興支援事業」
- ・2014年～ 「ふるさと学級いいたて」実施事業
- ・2016年～ までいな手仕事 生きがいづくり事業 飯館村「までいな心の復興」事業
- ・2017年～ 飯館お土産開発事業
- ・2019年～ 台湾カフェTAROTAROプロジェクト 福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業  
ー福島と台湾の大学生による地域特産品づくり
- ・2021年～ 日台交流WEBマガジンTAROTARO 福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業
- ・2022年～ いいたて村の村民食堂事業 福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業  
飯館村体験博覧会「こちら5合目、応答せよ！～までいな山の登りかた～」 福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業
- ・2023年～ 文化庁「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業  
「阿武隈高地の凍み餅」調査研究・発信

## —本年度の事業—

①

食を通じて飯舘村とつながろう

「いいたて村の村民食堂」プロジェクト

②

ワークショップ/フィールドワークを通じて村を知ろう

飯舘村体験博覧会vol.2

「こちら5合目、応答せよ!～までいな山の登りかた～」

③

国境を越えたつながりを復興に活かそう

「日台交流事業」

④

集落×大学生で新たなプロジェクトを立ち上げよう

「飯舘までいな力研究所」



### 事業報告 1

## 食を通じて飯館とつながろう

### 「いいたて村の村民食堂」とは


「いいたて村の村民食堂」は飯館村の村民と福島大学行政政策学類大黒ゼミの学生たちが、『ごはんを一緒につくって一緒に食べる』というプロジェクトによる交流の場です。

昔からおじいちゃん、おばあちゃんは作った野菜を使って料理を作り、若い人に食べてもらうことを生きがいにし、若い世代は「じじばば」の味をいつまでも懐かしく思ってきました。しかし、長い避難生活や、高齢者のみの帰還によって世代間の交流と食文化の継承が難しくなっています。このプロジェクトでは、①飯館村の高齢者が若い人たちを食事に招待し、②自分たちがつくった野菜で日常食をつくり、③彼らに振る舞いながら一緒に食べる機会をつくることで、高齢者の生きがいをづくりを通じた食文化の継承を目指しています。

ただ教えてもらうのではなく「いっしょに作って、いっしょに食べよう！」そんな取り組みにしたなら、レシピだけでなく、飯館のこと、飯館の味、飯館の人たちの思い出も聞きました。


今年度は6月から月に一度の定期開催です。加えて、「粕餅」や「団子茶屋」など飯館村で昔から親しまれてきた食の提供にも挑戦。さらに「村民食堂スピンオフ」として集落からの要望に応じて村内産のえごまを使った「えごまラーメン」の村民食堂を郡山女子大の学生さんと協力して開催しました。また、飯館村長泥地区主催の植樹祭／交流会や、「もりの駅まごころ」主催の「までいなマルシェ」など、村内団体にお声がけをいただいで「村民食堂」を出張出店する機会が増えてきました。

帰村した村民、村へ通う村民に、福島大学生や飯館村を訪れた人などが自由に語り合う場となったことで、多くの人が友人や村民、村とつながり、その絆を見つめ直す食堂になりました。

 6月23日


**MENU** 漬物3種 アスパラのお味噌汁 完熟梅の甘煮ゼリー  
おこわ2種 ふきの味噌炒め



 7月28日

**MENU** 漬物3種 夏野菜の冷やし汁 梅ジャム寒天  
おこわ2種 肉じゃが えごませんべい



 8月25日

**MENU** 漬物3種 すまし汁 えごませんべい  
おこわ2種 いんげんのえごまあえ



## 🌀 9月22日

**MENU** 漬物3種      なめこ汁      かぼちゃまんじゅう  
おこわ2種      ナスの味噌和え



## 🌀 10月27日

**MENU** 漬物4種      芋煮      いちじくのコンポート・  
おこわ2種      麻婆豆腐      夏みかんジャムのヨーグルト

いちじくと夏みかんは香川県の  
支援者からの贈りものです




## 🌀 11月24日

**MENU** 漬物4種      鮭と根菜のお味噌汁      白玉団子（かぼちゃ・あんこ）  
おこわ2種      がんもどき






＼村民食堂スピノフ／  
 11月25日

**MENU** えごま豆乳坦々麺    えごま葉ともやしのナムル    凍みまんじゅう  
 里芋の梅ドレ和え    なすの煮びたし    えごま葉茶


飯館村大久保・外内地域からの要望に応じ、同地域で栽培している「えごま」を使ったラーメンを提供しました。レシピは郡山女子大の学生さんが考案。多くのお客さんが来店くださいました。



 12月22日

**MENU** 漬物3種    キムチの味噌汁    冬至かぼちゃ  
 おこわ2種    味噌じゃが    甘酒




 1月26日

**MENU** 漬物3種    油揚げのお味噌汁    凍み餅  
 おこわ2種    鮭の粕煮


兵庫県から「NPO法人なごみ」さんが訪問してくれました。



 2月16日

**MENU** 漬物4種      とうろろ汁      甘酒  
おこわ2種      味噌じゃが



 3月22日

**MENU** 漬物4種      とうろろ汁      甘酒  
おこわ2種      味噌じゃが



## 出張編

- 6月16日      ふわふわ・もちもち 昔ながらの柏餅販売@いいたて村の道の駅までい館
- 10月8日      までいなマルシェ出店@いいたて村の道の駅までい館
- 10月15日      飯館村長泥地区植樹祭にて村民食堂開催@長泥交流センター
- 10月21日      マルクト朝市出店@福島市信夫山噴水公園
- 11月21日      かつて「塩の道」に存在したとされる団子茶屋・復活！  
村民食堂の団子茶屋@いいたて村の道の駅までい館
- 2月23日      阿武隈の凍み餅を【食べる】シンポジウムにて村民食堂出店@福島市土湯温泉 YUMORI
- 2月24日      ワクワクあったかマルシェ出店 @ もりの駅まごころ

# 「こちら五合目、 応答せよ！～ までいな山の登りかた～」



## 事業報告 2

### ワークショップ/フィールドワークを通じて村を知ろう

#### 飯館村体験博覧会 vol.2.

#### 「こちら五合目、応答せよ！～までいな山の登りかた～」

「までいな村」として村づくりを行なってきた飯館村。時に厳しい高地の自然と向き合い、村民同士が支え合うことを当たり前、人々は「までいな暮らしを育ててきました。そんなまでいな村が持つ手業をいかした企画「飯館村体験博覧会 こちら五合目、応答せよ！～までいな山の登りかた～」。村民、移住者、そして支援で村に入る大学生という3者が協働で、それぞれの手業をいかした20のワークショップを8ヶ月にわたって提供しました。

企画の名前は、震災直後の村民の言葉からいただきました。全村避難が始まろうとしていた時のことです。「村づくりは8合目、9合目まで来ていたんだ。放射能汚染や避難があったって、これまで積み重ねてきたものはゼロになりはしない。5合目からの再出発だ。」

これまでの村づくりの理念、それを支えた人々、村の伝統や手業。村が決して失わなかったものから始め、復興の高みに向けて歩み続ける人たちが今もいます。その人たちのことを知ってほしい。そして一緒に「までいな山」に登ってほしい。そんな願いを込めました。

今年度は2回目の開催です。震災から13年が経ち、飯館村の自然を活かしたワークショップが増えたこと、そして、原子力被災地に特有の「放射線」問題にも正面から取り組んだことが、本年度の特徴となりました。SNS、チラシ、HPを通じて参加を得た方々から「飯館村に来るきっかけとなった」「面白いことが起きている村だと感じた」「久しぶりに村に来ることができて嬉しい」などの感想をいただきました。



## 昔ながらのしそジュースを商品化!

### きみも今日から「食」の6次化プロデューサー

村のお母さんからしそジュースを教わるワークショップを開催。また、赤しそジュースをつくるだけではなく、村のお土産になるよう商品化するまでを目標に、参加者に手描きラベルのデザインを考案してもらいました。完成度が高くすぐに販売可能な商品の完成です!

実施日: 2023年8月1日(火) 13:05-15:30

参加人数: 5名



## 真夏の宝探し「イータテバイク」を

### 掘って!学んで!食べて!

「イータテバイク」は、飯舘村の菅野元一さんが育成した、無肥料・無農薬で栽培できる、小ぶりのじゃがいも。村の名前がついた「イータテバイク」の魅力を多くの人に知ってもらうため、畑での「いも掘り」、食堂での交流会、イータテバイクの食べ比べを行いました。

実施日 2023年8月11日(金) 8:00-11:00

参加人数: 20名



## あんだの山Tつくりさこ!

### 自分だけの「福島山T」をつくろう

飯舘村の野手上山をモチーフにした自分だけのオリジナル山Tシャツをつくるワークショップ。それぞれ野手上山のイラストを描き、シルクスクリンでTシャツに転写しました。

実施日: 2023年8月26日(日) 10:00-12:00

参加人数: 8名







## 図図倉庫の巨大扉はあなたの芸術作品

### 草木の標本屏づくりワークショップ

ホームセンター跡地につくる、地域環境づくりの秘密基地空間「図図倉庫(ズットソーコ)」。地域の方々、専門家や研究者たち、そして村を応援する支援者たちと一緒に作り上げている空間です。ぜひ、もっとたくさんの方に参加してもらおう！と企画しました。飯館の草木をレジンで閉じ込めて、巨大な扉をつくるワークショップ。募集期間が少なかったためか、残念ながら最小催行人数に届かず、中止となってしまいました。

実施日：2023年8月27日(日) 10:00-12:00

参加人数：最少催行人数に届かず中止



## 知ってる英語で十分！

### オーストラリアのケーキを作ってみっぺ

村の地域おこし協力隊として活躍するコーヒーポアハウスの横山梨沙さんが講師として開催。オーストラリアの家庭的なケーキを作りながら、英語を学ぶ一石二鳥のワークショップとなりました。

実施日：2023年9月23日(土) 13:05-15:00

参加人数：10名



## それは、歴史をたどる道。

### 塩の道ウォークラリー第1弾

塩や海産物を内陸に運ぶために使われた道、塩の道。今回は飯館村の塩の道の一部、八木沢から芦原、関沢に抜け、草野までを歩きました。ガイドは村の歴史探究家の佐藤さん。話を伺いながら手書きマップを作成しました。

実施日：2023年9月24日(日) 9:00-14:00

参加人数：9人





あなたのまわりには豊かな野草がいっぱい!

身のまわりの野草を集め、薫り高いオリジナル野草茶を作ろう!

村内の除染された畑でできる大葉や赤紫蘇、荳胡麻、かぼちゃの種、ヨモギ、ウコギなどを揃え、野草茶づくりを行いました。畑での栽培、放射線検査を重ねるなど丁寧な作業を積み重ねていけば、飯舘村でも野草茶を作り、楽しむことができることを実証しました。

実施日：2023年10月1日(日) 13:05-15:00

参加人数：18名



「までいな村」の自分史一

村民一人ひとりがつくってきた村の歴史を辿ろう

1996年から6期24年にわたり、村政を率いてこられた前村長、菅野典雄さんにお話を伺うワークショップ。震災前の村づくりから震災後まで、村民そして村長として経験した村民協働の充実の時間や、直面した厳しい選択について、4回に分けてお話を伺いました。

実施日 2023年10月7日(土)②11月11日(土)③12月2日(土)④2024年1月20日(土)

参加人数：各回8名



飯舘で活動する大学生、集まれ!

料理を作って参加する「持ち寄り」の長泥交流会

12年ぶりに避難指示が解除された飯舘村長泥地区。「長泥に来てほしい」という長泥の方々の願いを叶えるため全国の大学生に長泥に来てもらい、食の交流会を一緒に企画、実施してもらったワークショップを行いました。福島大学、慶應義塾大学、青森大学などが参加し、長泥の方々と交流しました。

実施日：2023年10月14日(土)~15日(日)の2日間

参加人数：25名



10

## までいなくらしを楽しむ

### 裂き織りコースターで味わうお茶の時間

飯館村のお母さんたちで構成される「いたてつなげるキルトの会」の皆さんが講師です。お母さんたちが提供してくださった古着物を使って裂き織りコースターをつくるワークショップを行いました。

実施日：2023年10月22日（日）10:00-15:00

参加人数：5名



11

## 私たちの心の山をもう一度

### 空間線量を測定しながら虎捕山に登る

震災前はお参りとしてもよく登られていた虎捕山。実際の線量はどのようなのだろうかという声に応じて実施したこのワークショップ。放射線リスクセンターの協力もいただき、放射線の専門家とともに解説いただきながら登りました。秋の景色も圧巻です。

実施日：2023年11月3日（金・祝）10:00-13:00

参加人数：10名



12

## 真宗門徒の心の拠りどころ

### 善仁寺で仏さまの教えを知る

浄土真宗本願寺派善仁寺の住職である杉岡誠順さんにお話を聞くワークショップ。普段なかなか聞けない、仏教のこと、住職ご自身のこと、そしてこの善仁寺が飯館村でどのような意味をもって続いてきたのかお話をいただきました。参加者からはたくさんの質問が。

実施日：2023年11月5日（土）10:00-11:00

参加人数：9人



13

## 福島大学と飯舘村はながいおつきあい 伝統技術「ほぞ組み」をつかった フラワーボックスに飯舘の花を飾ろう

福島大学出身で現在福島県柳津町で木工房を開いている目黒照枝さんと、福島市でお花屋さんを開いている鈴木さち子さんを講師に開催。飯舘産のえごま油でフレームを仕上げ、飯舘の草木を使ってアレンジメントしました。

実施日：2023年11月12日（日）13:05-16:00

参加人数：7名



14

## 伝統の技と食をピザに 飯舘村の食材で世界で一枚の「まδειな」ピザづくり

気まぐれ茶屋ちえこの千栄子さんとお話しして企画したワークショップです。気まぐれ茶屋の前にあるピザ窯で、千栄子さんのどぶろくを使って生地を作り、飯舘村の郷土食や食材を具材にしてオリジナルのピザを作りました。

実施日 2023年11月18日（土）10:30-13:30

参加人数：8名



15

## 震災前の夢を再び。 もち米「あぶくまもち」を使って 新たな名産品「いいたておやき」づくり

震災後栽培が復活したもち米「あぶくまもち」を使っておやきをつくるワークショップ。館は村内のかぼちゃや大豆、きんぴらなどを詰めました。お子さんもたくさんご参加いただきました！

実施日：2023年11月26日（日）10:00-12:00

参加人数：15名





16

## 飯舘の自然とキャンドルのコラボ

### オリジナルキャンドルボックスでクリスマスを迎えたい!

工房マートルの大槻美友さんが講師となって開催。こちら5回目オリジナルのワークショップです。キャンドルに好きな色を塗り、飯舘村の草花や大槻さんが取り寄せ丁寧にドライフラワーにした草花でボックスを飾りました。

実施日：2023年12月3日(日) 10:00-12:00

参加人数：3名



17

## 親子で参加するワークショップ

### シマエナガちゃんをお家に招こう!

羊毛フェルトでシマエナガをつくり、飯舘村で収集した草木で飾ります。飯舘村内にある屋根裏アトリエ「森の音」で開催。まるで秘密基地のような心が弾む空間で、自分だけのシマエナガを作りました。終了後は、手料理のふるまいも。

実施日：2023年12月16日(土) 10:00-11:30

参加人数：8名



18

## 飯舘の寒さを活かした保存食

### あなたにつなぐ凍み餅の作り方、食べ方

いいたての村民食堂で凍み餅を堪能した後、凍結したごんぼっぱ餅を藁で編む、凍み餅編みを体験しました。参加者は慣れない手つきでしたが編み方は丁寧に説明。講師は村で保存食を作る高橋トク子さん。若い方からお母さんたち、台湾から来た大学生まで、多くの方がご参加くださいました。

実施日：2024年1月26日(金) 13:30-15:00 (昼食は11:00-13:30)

参加人数：19名



19

## 飯舘村と台湾をつなぐ絆

### 台湾キッチン TAROTARO のパイナップルケーキ

福島大学生が台湾の大学生たちと毎年、飯舘村での活動を続けている中で開発してきた数々の商品たち。その中で断トツで人気が高いのがパイナップルケーキです。当日は、生地を作り、餡を包んで焼く工程を行いました。美味しい！と評判の味でした。

実施日：2024年3月22日（金）13:00-15:00

参加人数：5名



20

## 台湾キッチン TAROTARO

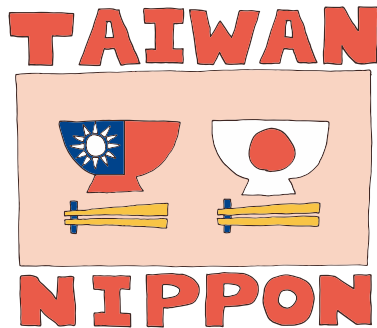
### 台湾料理 WORKSHOP by 国立台北大学

福島研修旅行で福島を訪れた国立台北大学の皆さんが提供するワークショップ。台湾でよく食べられている「滷肉飯（ルーローハン）」と「蛋餅（ダンピン）」を参加者の皆さんと一緒に作りました。子どもたちも参加してくれ、大成功！

実施日：2024年1月27日 12:30-14:00

参加人数：10名





### 事業報告 3

## 国境を越えたつながりを復興に活かそう

### 「日台交流事業」

2019年から始まった福島と台湾の交流。文藻外語大学と国立台北大学という台湾2大学と福島大学の学生を中心に交流を行い、台湾が続けてきた福島県産品の輸入制限の撤廃を目指した活動を続けてきました。新型コロナウイルスの影響もあり、思うように直接交流ができずにもどかしい時期もありましたが、日台交流サークルの設立やWEBの活用など、継続的な交流の基盤を確立してきました。

ついに2022年初めに実現した台湾による福島県産品の輸入制限措置の解除を受け、私たちの活動は大きな転換期を迎えました。『輸入制限措置の解除』から『福島の魅力発信』へとその目標を転換し、新たなチャレンジに踏み出しました。

今年度は新型コロナの蔓延後では初めて、台湾学生を福島に招待し、福島研修旅行を実施しました。昨年度から取り組んできた「福島の魅力を発信し、福島に来てもらう」という取り組みが実を結んだ形です。「冬」をテーマに、会津の雪と温泉などに加え、飯舘村の冬の食文化を体験するツアー。台北大学の学生9名を迎えて、日台の学生が交流する8日間となりました。

そしてもうひとつ、福島大学生が台湾を訪れ、飯舘村の現状ばかりでなく、福島の自然や人、伝統の技を伝え、多くの台湾学生を福島にご招待することを目的とした台湾研修旅行を行いました。台湾で私たちが伝えたかった事、それは、「ぜひ福島に、そして飯舘村に、私たちに会いに来てください!」ということだけ。

お互いを知ることで、海の向こうの遠い地域にも心を向けてくださる方がたくさんいました。顔と顔を合わせる交流は地道かもしれませんが、確実に種はまかれています。

# 來來福島

○福島研修旅行

わたしたちと旅をしよう。



台湾から冬の福島へようこそ！  
福島の「冬」と「文化」を体感する旅

▶ 2024.1.21(日)-1.28(日)

台湾による福島県産品の輸入制限措置解除を受けて、被災地が取り組む国際交流の目標は、「福島の魅力発信」へと新たなチャレンジする段階へと進みました。今年度は新型コロナウイルス蔓延後、初めて台湾の学生を招致し、福島研修旅行を実施。ホストである福島大学の学生と台湾の台北大学の学生が交流しながら、福島市、柳津町、裏磐梯、そして飯舘村でたくさんの体験をしてもらいました。





# ＼福島の大学生の暮らしを体感／

## IN 福島市

福島市内でフィールドワーク



福島大学ストリートダンス同好会  
「D.FOOL」にダンスを学ぶワークショップ



福島の食文化を体感  
日本の家庭料理をつくろう！



福島のテレビ局テレビビュー福島さんを訪問  
生放送を見学

# ＼冬の会津を体感／

## IN 柳津町・北塩原村



柳津町立柳津小学校訪問



ワカサギ釣り体験



第一只見川橋梁の景色を堪能



あわまんじゅうづくりワークショップ



会津桐を使った  
「フォトボックス」制作ワークショップ  
講師：木工房 MEGURO 目黒照枝さん

## おもてなしへの恩返し！

### 「台湾料理を通じた福島市民・飯舘村民との交流」



IN 福島市



台湾の学生が主催して「こちら5合目、応答せよ」のワークショップを開催。ルーローハンとダンピンを一緒につくるワークショップを開催し、福島市・飯舘村から10名の参加をいただきました。



### ＼飯舘村の食文化を体験／

IN 飯舘村

▶ 「いたて村の村民食堂」をお手伝い ▶



◀ 阿武隈地域の伝統食「凍み餅」「くくり」ワークショップに参加 ▶

# 去台湾！

わたしたちが伝えにいきます。

○台湾研修旅行



## 「福島に来てください」—魅力発信の旅

▶ 2024.3.7(木)-3.12(火)

これは、「福島へ来てほしい。そして私たちと一緒に活動してほしい」と伝える旅。高雄の文藻外語大学と新北市の国立台北大学との交流、そして、私たちの活動を台中にも広げるため、台中にある大学を訪ねて新たなつながりを創るフィールドワークを行いました。福島研修旅行に参加してくれた学生とも再開。大学生同士の国際交流をきっかけに、福島への「共感」と「信頼」が深まり、そして復興を支える種がまかれた旅となりました。







「お互いの地域の魅力を伝え合う」

台湾・高雄にある文藻外語大学との交流



## 「高雄、最高の楽しみ方！」

文藻外語大学の学生と交流

4グループに分かれ、テーマごとにフィールドワークを行いました。

第1グループ 「食」

第2グループ 「音楽」

第3グループ 「歴史」

第4グループ 「高雄の不思議」



## 高雄・文藻外語大学



## 文藻外語大学の 高校生クラスとの交流

→福島・飯舘での活動を伝える「福島への招待」プレゼンテーション

→日台混合で4グループに分け、グループ対抗の「大縄跳び」大会を開催  
優勝チームには日本のボードゲームをプレゼント







## 国立台中科技大学

### \* 「交流の輪を広げよう」 台中で各大学を訪問

3グループに分かれ、台中にある大学を訪問し学生と交流しました。福島の暮らしや飯舘での復興への取り組みについて執筆した「福島の学生から台湾の友人たちへー私たちの福島生活31のストーリー」も配布。



## 静宜大学



## 東海大学



## 日本と台湾の交流の歴史、 食文化を通じた交流 ——国立台北大学との交流

### ○李梅樹記念館の参観

台湾の有名な近代画家・李梅樹記念館を訪問。東京美術学校（現在の東京藝術大学）で学んだことなど、日本と台湾の交流の歴史を体感しました。描かれた絵画の中には福島県と新潟県にまたがる奥只見湖の風景も。



# 国立台北大学



### ○食を通じた交流

- ・豆花づくりワークショップ
- ・国立台北大学の学生による三狭の茶文化紹介・試飲





#### 事業報告 4

### 集落 × 大学生で新たなプロジェクトを立ち上げよう

#### 飯舘までいな力研究所

飯舘村は 20 の行政区からなっています。かつて行政区は、村民がお互いに助け合い、協働で地域活動を行う、貴重な生活インフラのひとつでした。しかし、震災以降、各行政区の活動状況はそれぞれの集落の状況により様々です。行政区で農業を協働で行っているところもあれば、集まるためには避難先から戻ってこなければならないので以前ほどの活動ができないと悩む集落、地域の担い手となる若い人が少ない集落、やっと避難解除となったため、今後動き出そうとする集落…。

特に令和 5 年 5 月に帰還困難区域の指定解除となった長泥集落からは、当財団に「集落活動を手伝って欲しい」と相談をいただきました。また、佐須集落からは「今後の村づくり、集落活動を考えていく中で若い人たちと意見交換をしたい」との声も。

「集落の力」を再び取り戻し、住民の生活基盤とすることは、村の復興の重要な課題です。今年度は「長泥」「佐須」集落を中心に、集落の力の復活を目指す地域住民と飯舘村の復興を支援する大学生とともに定期的な意見交換を行うことにしました。

## 長泥

集落  
プロジェクト

2023年5月に帰還困難区域の指定解除となった長泥集落。このプロジェクトは「人手も足りないので学生さんに集落活動を手伝って欲しい」とご相談いただき始まりました。学生とともに伺い、どのようなことができるのか意見交換を行ったところ、「植樹祭」で行う交流会で「いいたて村の村民食堂」の食を提供することに。

全国から長泥を支援する方々が集まり、解除後はじめて、長泥住民とともに長泥地区の将来について意見交換する場となります。わざわざ遠くから来てくれる方々に心からのおもてなしでお迎えしたい—長泥のみなさんの想いを引き継ぎ、試食会を実施してご意見も伺いながら準備を重ね、村民食堂総出のおもてなしをしました。



## ●提供したメニュー

- おこわ5種類
- 芋煮
- 漬物各種
- 甘酒
- しそジュース
- なつはぜジュース
- 夏みかんといちじくのコンポート
- 慶應義塾大学の皆さんによるキウイのデザート



## 佐須

集落  
プロジェクト

佐須行政区からは、今後の村づくり、集落活動を行う上で「若い世代と一緒に考えて欲しい」「若者の率直な意見が聞きたい」という声をいただきました。一度集まって意見を交換するだけではなく、十分な交流を行った上で意見交換をしようと、佐須の家庭に大学生が入り、家業のお手伝いや郷土料理を一緒につくる1日を設定。

絵手紙や年賀状のやり取り、そして10月から12月にかけて佐須行政区の7つの家庭に大学生3～4人がお邪魔し、丁寧に交流を行いました。

その後、1月18日に「世代を超え 共により良き社会を」をテーマに討論会を実施。訪問で感じたことの発表からスタートし、佐須のお父さんお母さん、そして大学生がこれまでの経験や現在の悩みなどを素直な言葉で語り合いました。

「若い人には好きにやって欲しい」「若い人がいなくて集落をどう維持していくのか」「農業って大変だけど、どうして続けるの?」「村の文化、暮らしを残していくべきだと感じた」率直に向き合うことで世代間の理解も深まったと感じます。来年度以降、若い支援者がどう村で活躍していくのか、今後も定期的に意見交換を行い、プロジェクトの具体化を進めていきます。



## 人と人とのつながりが、 人と土地とのつながりを創る

今年度のわたしたちの事業に積極的に参加してくれた福島大学の学生さんが、ある報告会で発言してくれた言葉。

— 「人と人とのつながりが、人と土地とのつながりを創る」。

わたしたちは、多くの人に飯舘村と関わってもらいたい、そのためのルートを多様に作り出すことを目指して活動を続けてきた。

本年度も4つの柱を置き、①「いいたて村の村民食堂」②「こちら5合目、応答せよ！」③「国際交流を通じた復興」④集落を強くする活動を展開してきた。

「いいたて村の村民食堂」はこの3年間で大きく成長し、毎回30名から40名のお客さんが村内外、時に海外からも訪れる食堂へと成長した。

「こちら5合目、応答せよ！」も、村民、大学生、そして飯舘村とのかわりを目指す方々の3者が、ワークショップやフィールドワークの、ときに講師/案内者として、ときに参加者として関わり、今年度は20の企画を実施することができた。

「国際交流を通じた復興」は、コロナ禍がようやく開けて、台湾から9名の大学生が福島を訪れ、飯舘村での凍み餅づくりや台湾料理ワークショップの開催が行われた。福島からも8名の大学生が台湾を訪問して各地の大学生との交流を深めた。

今年度新たに始めた「集落活動」では、村内2つの集落で活動を展開した。とりわけ村内最後の避難指示解除が実現した長泥集落では、長泥の将来を一緒に考えるために県内外から訪れた140名を超える方々を「村民食堂」にお招きし、集落のみなさんとともにおもてなしすることができた。

多くの活動を様々に展開していると、すべての活動をつなぐ理念が見え

にくくなることもある。食堂運営から台湾学生の福島研修旅行の企画までを貫く理念とは何なのか？

福島大学の学生は、1年間の活動を作り運営するなかで、その理念を的確につかみ取ったのだろう。

— 「人と人とのつながりが、人と土地とのつながりを創る」。

そう、1年間の活動は、わたしたちが作るさまざまな「場」で、人と人をつなぐことで、その人と飯舘村という土地をつなぐことであった。

「おいしい」と感じた方は、飯舘村の食の伝統や漬物を生み出す風土や人に関心を持つだろう。

原発事故の影響が残るなかでも、までいに丁寧に取り組めば飯舘村の野草茶が飲めることを体験したワークショップ参加者は、村の被災の現状やまでいな取り組みを知り、村の魅力を発見するだろう。

不安をもって訪れた台湾の大学生たちも、真面目に放射能に向き合い、熱心に活動する村の人や学生を友人にもつなら、彼らの友人として自国で飯舘村を守ってくれるだろう。

そして、長泥で集落のみなさんに心のこもったもてなしを受けた方は、集落の将来を心にとめ、これからも長泥に通い続けてくれることだろう。

人と人をつなぐことは、人と土地とのつながりを創ることである。

これからも、この学生の言葉が確かな真実であることを証明できるように、活動を続けていく。

一般財団法人 飯舘までい文化事業団

ひと



ひと



と

とのつながりが、

ひと

土地



と

との

つな<sup>つく</sup>がりを創る



一般財団法人

飯舘までい文化事業団



主催 一般財団法人飯舘までい文化事業団 協力 福島大学行政政策学類大黒ゼミ

お問い合わせ 一般財団法人飯舘までい文化事業団 事務局 tarotaro@furusato-bunka.jp

この冊子は福島県「令和5年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の補助金の交付を受けて作成しています